

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『大地に触れ外気（太陽）を浴びる、閉じこもりによるストレスの開放』……ストレスを溜めない工夫（例えば、行事等について地域の方々、家族様へのお知らせ等回覧板作成し、他の方々との楽しい語らいの時間を共有する事や、移動パン屋の訪所してもらい施設敷地内で買い物をするなど『楽しみ』を持って暮して頂く等)	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	最低月一回以上、全体会議やチームカンファレンスを行っており、この場で理念の実践に向けて取り組み等を検討し、課題を見出し取り組んでいる。また取り組んだ課題には反省会等を持ち、ケア・チーム個々に開き今後への展開に繋げている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関入口の掲示板にいつでも見られるように掲示している。また、面会時等には出来るだけコミュニケーションを図れるような生活空間を調整すると共に運営推進会議を活かし運営推進委員の協力を得て取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所隣との交流は積極的にアプローチしており、その結果「旬の野菜」等を戴いたり、又、各種行事には家族や近所の方に参加して頂いて交流を深めている。当初は疑心な目で眺めていた皆さんが、5年目を迎えようやく理解されて来た事が顕著に現れてきた結果であると思っている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立する事なく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流する事に努めている	施設長は、地元自治会々員であり、集会や各種行事（掃除・祭事等）には積極的に参加して地域との交流に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	項目13でも書いた通、当初は理解され難かった事業の目的が漸次理解されるようになってきたことが実感できる。引き続きより一層愛され親しまれるように地道な活動を継続してゆきたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日常業務等を改めて見直す為には良い機会であると考えます。更なる向上を目指して、環境改善、役職員の意識向上に役立てるよう務めている。また、全職員が会議で自己評価票を検討し意義を学び全員で取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員の皆さんの参加を頂いて定期的に開催している。会を重ねる毎にホームでの活動・研修・入居者の状況を報告して、委員の皆さんより貴重なご意見・アイデア等を頂き新たな取り組みを行ったりして地域の方々との交流が深められたと思います。また、地域の方々が度々来所され入所者もホームでの生活に『はり合い』が出ている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所支所との連携は密にしており、連合自治会長の協力もあって、『季節毎の花でも植えて入居者を楽しませて下さい』と言って、支所より助成金の支援をいただきました。又支所長による『サクソ演奏』のボランティア等各種応援を戴いています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	過去一件実際に取り組み致しましたので、制度そのものは理解して手続きも解っているのですが、今後もし必要となれば抵抗なく取り組めるものと考えております。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	この問題は如何に重要であるか、研修（OJT、OFFJT）の場をつくり意識向上に努めている。特に意識しないで虐待等に繋がっているケースはないか、事例を以って説明して常に注意を喚起している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明するに当たって出来るだけ、専門用語・略語等を避ける様心掛けて、理解して頂き易いよう説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とのコミュニケーションを常に十分として、遠慮の要らない生活・話し合いが出来るムードづくりに心掛けている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月月初に『ふるさと便り』を送付して、生活状況・健康状態・行事等を報告している。またこの報告書には写真も添付しているので目で見て確認出来る様になっている。これ以外にもご家族様が面会に訪れた時には、その都度入居者の日常生活の状況を報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様との連絡は常に密にして、コミュニケーションを十分とり、遠慮の要らない話し合いが出来るムードづくりに心掛けている。ご意見箱各棟に設置し些細な事でも、気軽に意見等伝えて頂ける様にしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	最低月一回以上全体会議及びチームカンファレンスを行って、この場で職員からの意見や提案について出席者全員で検討している。職員ノートを作り自由に思いついた事や、自己の反省、情報の共有など職員が記入して、全体会議の議案として検討している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	如何なる事情があっても入居者様に迷惑をかけることない様、当然考慮しなければならない事として職員間の協調性を話し合い臨機応変に対処している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当ホームは基本的には、全員が全入居者の状態を把握し、いつでも誰にでも即対応出来る様に指導している。従って異動による影響はありません。行事等全員で行動する時、或は緊急時等共に協力を必要とする時、私は担当でないから解らないでは責任ある対処がとれない。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法定研修(管理者・実践者研修)平成20年度は4名受講終了しました。定期的な内部研修は勿論、外部研修にも積極的に参加させている。また、これら研修は公休を利用して参加するのではなく、全て有給扱いとして参加費用についても内容によって事業所負担として支援している。そして常に上位資格の取得へ挑戦するよう話してる。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年計画していました同業者との交流の一環として、介護老人保健施設**の協力を経て、現場実習として2名(2日)を参加させました。またグループホーム連絡会を通じて交流の機会をもっている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各種行事の後の慰労会や定期的な懇親会等を行って、労を労う事により職員間空気は非常に良い。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	どんな些細なことでも報告出来るような、風通しの良い職場環境づくりに専念している。この結果各人の意識レベルも向上しており、今後も継続する事により、その人の持つ隠れた才能を伸ばして行きたい。職員個々に多様な研修会に参加希望があり、出来るだけ参加させている。終了後は必ずその報告会を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	誰でもそうであるが、最初は知らない環境に戸惑いなかなか心を開かないのが普通である。従って、昨年より始めたディサービスを利用して先ず環境に慣れて頂き、徐々に親しみ信頼関係を築くように心掛けている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	項目23と同様ディサービスを利用して頂く事で、コミュニケーションを深めることが出来ホームとの信頼関係が築け、不安が解消出来ると考えています。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と言えども、入居者本人の状態を正しく把握出来ていないケースもあるので、先ず本人の状態を把握すべく努力した上で、家族の意見も考慮して話し合い本人に最も必要とするサービスを決めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	項目23と同様、ご家族様の意向等コミュニケーションを密にして、入居者様に安心していただき信頼関係を築くように心掛けている。本人及び家族には何時でも自由に見学でき、場合によっては職員が自宅を訪問して説明し、安心感を持って頂く様にしている。入居後は孤独とならず早く馴染んで頂ける様に寄添ったケアに取り組んでいる。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に入居者様を中心に考え行動し、入居者様に信頼して貰えることを第一にストレスを溜めないように工夫している。時には一緒に歌を唄いながら家事を手伝って頂いたり、陽ぼっこしたり常に寄り添い同じ時を共有し、時には知恵袋をお借りして職員が成長させて頂いている。入居者様の尊厳を十分考慮すると同時に、家族同様に遠慮の要らない関係を保つ様に心掛けている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションは常に密にすべく、ホームからの情報は面会の都度・『ふるさと便り』を通じて・或は電話等にて報告し、また家族さんの希望、ご意見等を聞いて入居者にとって最善と思われる方策でもって対処している。また、ご意見箱を設置したので、気軽に忌憚のないご意見を聞くことが出来ればと思っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との関係を重視して、原則として面会時間を設けたりせず深夜を除いて自由としている。また行事等には出来るだけ家族の参加を呼びかけている。又、面会時にはご家族様と昼食等を一緒にして頂き、ご家族様を含めた付き合いを保つべく心掛けている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	項目29と同様、家族以外の親戚・知人等の面会も自由としている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者各人のレベルに合わせ職員と一緒に利用者全体が協調性を持てるように努めている。お互いの昔の話に意気投合したり、その中に職員が参加したりして輪を作るよう心がけている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後と言えども家族からの相談等あればアドバイスに応じているし、また来所も自由である。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各人利用者のレベルが同一でない為、その人に応じた対応をしている。一人ひとりの思いや要望を聞き出せる様コミュニケーションを大切にし困難な場合においても本人本位のケア行うべくケアカンファレンスを定期的に行っている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族とのコミュニケーションを大事にする事で、本人の生い立ちや生活歴や病歴等について可能な範囲知った上で、より良い生活が出来るように努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々人のファイルを作り全職員で情報を共有することで、各人のニーズを見い出せる様ケアカンファレンスを行い、日々の生活に於いてもニーズを把握できるよう努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人、家族は勿論のこと連携病院の主治医との関係も密にして、全職員で情報を共有し入居者本位のケアになる様、計画作成に取り組んでいる。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々生活の中から出来る事、出来ない事を見い出せる様、職員間の連携を重要視して、本人との面談や家族、主治医等に相談や指導を得て、一人ひとりに合った計画になる様に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを利用して日々の生活を詳細に記録することで、入居者夫々のライフスタイルや些細な変化を見落とさない様取り組んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	複数の医療機関との連携を密に定期的な往診など、利用者の健康管理には十分配慮している。本人、家族の状況に応じて通院も支援している。医療機関とは、ホームは勿論ご家族様とも信頼関係が深く築けている。場合によっては、管理栄養士より栄養指導を受けられる様配慮し本人ご家族様の状況に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	連合自治会の主催する地元小学校で行われた、防火・防災訓練に3名が参加致しました。また、市役所支所より美化・環境整備の一部にとの事で援助費を戴きました。また、和歌山県主催の県民文化会館での、各種文化交流への招待状も戴いており交流の場を広めてゆきたい。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ホーム併設のディサービスを含め、様々な視点からケアマネジャーや事業者との交流を図っている。情報の交換は非常に参考となる事も多く、今後も積極的に継続して行きたいと考えている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じて関係を密にしており、地域包括支援センターとの協力体制を整えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>退所する先によって対応が異なるが、サマリーによる情報提供を行い新しい所に早く馴染めるよう支援している。</p>	
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の個人情報の取扱いに特段の留意することは勿論、プライドや人格を尊重し決して汚す事のない様、言葉・行動等に注意している。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者のレベルによって対応が異なるが、出来るだけ解り易く繰り返し説明して、本人の希望を聞き出し自己決定出来るよう支援している。例えば、外食会に出かけたときにはメニューを自分で選択してもらう等</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの思いを知り対応する為にも、寄添いゆつくりと傾聴する事を優先すると共に、毎日の生活リズム、他の同居者との関係を崩す事ない様考慮し、可能な限り本人の希望に沿えるよう柔軟な支援に取り組んでいる。</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>特に指定がない利用者には、月一回の訪問理・美容を利用して、身だしなみやおしゃれができるように支援している。また本人の望む店に行きたいと言う人にはその様に対応している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を始として食事の準備、食材選び、片付け、食器洗い等手伝って貰い、食事は職員と一緒に並んで食べている。春・秋の気候の良い時期には、芝生の上で外気を受けながらの食事は非常に好評である。また毎月レストラン等へ外食会に行ってメニューや雰囲気を楽しんだりしている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やタバコを好まれる方はないが飲み物やおやつなど好みを聞き提供している。また、乳製品や移動パン屋さん等宅配して頂き一人ひとりの状況に合わせて楽しんで頂いている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成して排泄の有無を確認している。また時間が間に合わなくて失敗することを少なくする為、各居室全てに水洗トイレを設置している。一人ひとりのペースに合った排泄リズムを把握して、適切な誘導を行い不快な思いのない様に支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調不良等なければ、入浴は原則毎日入っている。また本人の希望や体調によってはシャワー浴や足浴に変えたりして対応している。特にフットバスは好評で、血行も良くなったと喜ばれ毎日の楽しみとなっている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者各人の生活習慣等を考慮して、安心して眠れるよう日々検討し実行している。また、一人ひとりの居心地の良い空間作りを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を分けて畳んだり、食事の手伝い、また花・木などの手入れ等、過去の生活歴を生かし楽しみを持った日常生活（特に食事面）を支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者各人の認知症の程度により、本人で管理可能な人は本人が管理している。また買い物を頼まれたりした場合代行もしている。管理が難しい人はホームで立替えており殆ど必要とする事はない。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候のよい日中は各居室の吐き出し窓をあけて、自由に芝生に出られるようにしている。また外気浴を兼ねて気分転換の為、周辺を散歩に行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との外出はいつでも自由に認めて支援している。またホームとしては最低月一回以上行事として外出の機会を設けている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各人の残存能力に差があるので、一律ではないが出来る人にはそれなりの支援をしている。 (例えば、電話の番号呼出を代行したり、郵便物の投函を代行したり……等)		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族以外の方の来訪も自由に歓迎している。また面会は居室、ホール、面会コーナー等自由に使用して頂いています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等を通じて身体拘束をしないケアの重要性を説いており、全ての職員が正しく理解している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		⇒より 『日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解して……』とあるが、反対に『鍵を掛けない時……』の弊害についてどう考えたら良いのか……？この反対の弊害の方が、計り知れなく大きなリスクであると考えるが……？ このリスクについての責任の所在は……？
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者個々人のレベルによって異なるが、想定されるリスクについて職員間では勿論、家族にも伝え、また意見・希望を聞いて事故を、未然に防ぐ対策をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、午前・午後のバイタルチェックを行うことで体調変化に気をつけ、異常がみられた場合には連携している病院へ連絡し、主治医の指示を受け、対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの投薬一覧表を作り、日付、個人ごとに分け、職員が管理し、服薬介助・見守りを行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便表、一日毎の水分摂取表を作り、排便の有無・水分摂取量の確認をし、また毎日ラジオ体操を行うことで予防対策をしている。また、食物繊維を中心とした食材選び・調理の工夫をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行い夜間、義歯を外される時には洗浄液につける等工夫をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外の景色が見渡せる窓辺にイスを置き、一人になれるスペースを設け、またソファは複数で座れるようになっているため気の合う利用者同士で過ごさせている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前に使用していた馴染みの物など、本人の要望を踏まえた上で、危険が伴う物以外は原則として持ち込み自由とし居心地よく生活できるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室に換気扇、空調を付け、空調の調整も利用者各人が行えるようにし、また定期的に職員が確認しています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、フローには手すりを付け、また居室内のトイレにも手すりをつけ、自立した生活が送れるようにしている。またシルバーカーや歩行器等の補助具も自由に使用出来る様にしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	残存機能を活かすために手すりの設置、表札の工夫、花やりボン等の目印をつけて自室を覚え易くする工夫等日々検討し、また本人の要望も考慮し、混乱や失敗を無くすようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外回りには花や木を植え、またベランダには芝生を引き個々人が活動しやすいように考慮している。畑や花壇もあり利用者様の生活歴を活かしたファーム作り、ガーデニングを楽しめるよう工夫している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

本人は勿論、家族も交えて要望を聞き適切と思われるアドバイス等を行い、少しでも快適な毎日が過ごせる様に支援している。常に入所者中心に何事も考え行動して、出来る限り本人の自由を拘束しない。また、快適な毎日を過して頂くには健康管理が重要である。その為、当ホームでは複数の医療機関と提携して、専門医の適切な医療が受けられる様にして体調管理に努めている。なお、受診するについての送迎等は、車椅子移動車を導入して、出来るだけご家族様にご負担を掛けない様に配慮している。

基本的には、次の三つのスローガン基に何事も考え行動している。

1. 常に入居者様を中心に如何にして安心した快適な毎日を過ごして頂くことが出来ているか。
2. 入居者様の健康管理について、些細なことでも見逃す事がない様十分な管理を行い、常にベストな体調を維持しているか。
3. ご家族様には安心してお預けいただき、ご家族様のご負担軽減にお役に立つ事が出来ているか。